

人間だもの

盛岡第二高等学校 三年 大石 彩樺

私が小学校の頃、いつも読んでいた詩の中で相田みつをさんの詩がとても好きだった。相田みつをさんの詩が書かれている日めぐりカレンダーを買って読んだりもしていた。

たくさんの意味と想いが込められており、かつ、それをたった一文で誰にでも伝えられるという事はそう簡単に出来ることではないと思う。相田みつをさんの詩を知った当事の私はまだ小学四年生だったにも関わらず、詩を読んだ一瞬にして、「この詩はこういう想いの私中で詩を書いたのだろうか」「作者はこの詩でこの事を伝えたかったのだろうか」というような解釈をすることが出来た。たった一文という短いフレーズの中でどれだけみつをさんの想いが詰まっているのか、とても興味深い。相田みつをさんの言葉で「人間だもの」という有名な言葉がある。私が最初に相田みつをさんを知ったきっかけとなる言葉がこの言葉だった。当時の私はこの言葉を、失敗することがあっても機械などではなく人間なのだからしようがない、という風に解釈していた。しかし、見る人によっては全く違う意味になってしまうという所がとてもおもしろいと思った。性別や年齢などの一人一人の持っているものによってどんな意味にでもなり得てしまう。人それぞれに対応し、自分なりの意味をその言葉に持たせてあげることによって言葉を一文に愛着を抱かせている。相田みつをさんの詩は、自分の感情だけをそのまま言葉に表しているのではなく、他者と自分を融合させ、かつその詩を読んだ人全員にその人自身の考えや想いを一文に乗せていくのだ。単純な言葉なのに人の心に入り込み、感動させる。自分の弱いところや、嫌だと思ふようなところまで正直に、純粋な言葉を組み合わせた文であると思った。そのような、自分や他人の嫌な部分を真正面から受け止めた上での言葉でも、ひねくれているのではなく、とてもじんわりと心が温かくなるような優しい言葉でもある。

また、相田みつをさんといえば、独特な字体の字を書いているということでも有名だ。相田みつをさんは十二歳の頃から書道のコンクールなどでよく賞をとったりしてとても字が上手い。最初に相田みつをさんの文字を見た時は下手くそだと思ったが、自分の感情を最大限に字で表現するためにあの独特な心温まる字体なのだと思う。「にんげんだもの」という詩は間違ってたって別に大丈夫という意味がこめられていてその言葉がまがっていたり、字の太さがばらばらだったりすることが、人間というものを表しているという事がよく分かると思う。

たった一文で数々の人の心に響き、温かく残り続けている相田みつをさんの言葉はとても私に影響を与えた。間違っても良い、大丈夫、という一文が、自分にとっての勇気になっていくと思う。

(傍線部分は原文まま)